

---

# ポケットモンスター アルタイル

バルム

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ポケットモンスター アルタイル

### 【Nコード】

N9462G

### 【作者名】

バルム

### 【あらすじ】

俺は、ポケモンをこよなく愛している。いつものように育てて、バトルして・・・そんな当たり前な一日だった。でも俺はなぜか、その日を境にポケモンの世界に行ってしまった。

## プロローグ（前書き）

初めての投稿です。まだまだ至らない所がありますので優しい目で見て下さい。

## プロローグ

「また、負けた。」

「お前のポケモン弱すぎ」

俺は中学2年生。

名前は八神竜星。

友達の浩二とポケモンバトルをして負けた方だ。

俺はいつつも負ける。

理由は分かっている。

「お前タツベイとイーブイばかり出してるから負けるんだよ。」

そう、何を隠そう俺は・・・タツベイとイーブイが大好きなのだ。

「うるせえ。俺は、いつかこいつらを進化させてお前に勝手やる。」

「あつそ。じゃあ頑張って育てるよ。」

そう言いながら手をヒラヒラと振りながら帰っていった。

「一緒に強くなるうな。」

俺がそう言つと突然画面が光って俺を光が呑み込んだ。

## プロローグ（後書き）

応援宜しくお願いします。 注PSPを使って書いているので読みにくくなっていますが出来れば気にしないで下さい。

## 第二話旅の始まり（前書き）

ちょっとおかしいところがあると思いますが読んで下さい

## 第二話旅の始まり

「うーん、ハッ！ここはどこだ？」

「確か俺は、ポケモンをやってて光に呑み込まれたんだっけ」

今、俺がいるのは森の中。しかも、なんかよく分からない声があるんな所から聞こえてくるし。

「とりあえず森から出るか。」

しかし、この時竜星には分からなかった。この行動が危険だということ。

・・・10分後

「そういえば腰になんかついているな。何かモンスターボールみたいな形しているけどまさか！」

竜星の予想は当たっていた。

「とりあえず出してみるか。」

「確かアニメでは真ん中のボタンを押して出してたよな。」

カチッ、ボン

「ギャーオ」

「うわ〜タツベイだあ。ということはもう一個のほうは・・・」

「ブイ」

「やっぱりイーブイだ。」

俺は確信した。ここはポケモンの世界だということ。

「とにかく元の世界に戻る方法を探さねば。そのためにもこの森から一刻も早く出よう。」

再び歩き出そうとしたその時タツベイ達が威嚇してきた。俺にかと思ったら草むらに向かって威嚇していた。

「な、何かいるのか？いるなら出てこい！」

ガサガサッと音が鳴ったら猿みたいなのが出てきた。

「まさかこいつはヤルキモノ！」

「初バトルの相手にしてはちょっと強くね」

とか何とか言ってるヤルキモノが【ブレイククロー】で攻撃してきた。

「ヤルツヤル」

「うわっ！やべ早く何か指示を出さなくちゃ。えと、タツベイ【竜の息吹】！イーブイ【手助け】！」

「グアー！」

「ブーイー！」

「ヤツヤル！」

【手助け】で威力の上があった【竜の息吹】がヤルキモノに直撃してヤルキモノは何処かへ逃げていった。

「すっげー！ゲームじゃ全然勝てなかったヤルキモノに楽勝で勝てた。これがこいつらの力。よくやったよ二匹共。」

タツベイ達は褒められて嬉しいのか尻尾を振ってた。

「よーしそれじゃあそろそろ出発しよう。なんとか野宿できる場所を日が暮れる前に見つけなくちゃ。」

そういつて竜星達は再びあるきだした。少し歩くと野生のムツクルヤコリンク、等々に襲われて、イーブイ達はもちろん竜星も疲れていった。そして日が暮れてきた時やっとな野宿出来そうな場所を見つけた。

「やっとな着いた。近くにはオボンの実とかモモンの実とかがいっぱいあるからここに決定だ！」

「さてと早速木の実を採ってきますか。」

そういつと竜星は大量の木の実を採ってきた。それから二匹と一緒に食べて。竜星は寝た。

「すっげー！ゲームじゃ全然勝てなかったヤルキモノに楽勝で勝てた。これがこいつらの力。よくやったよ二匹共。」

タツベイ達は褒められて嬉しいのか尻尾を振ってた。

「よーしそれじゃあそろそろ出発しよう。なんとか野宿できる場所

を日が暮れる前に見つけなくちゃ。」

そういつて竜星達は再びあるきだした。少し歩くと野生のムツクルやコリンク、等々に襲われて、イーブイ達はもちろん竜星も疲れていった。そして日が暮れてきた時やっとな野宿出来そうな場所を見つけた。

「やつと着いた。近くにはオボンの実とかモモンの実とかがいっぱいあるからここに決定だ！」

「さてと早速木の実を採ってきますか。」

そういつと竜星は大量の木の実を採ってきた。それから二匹と一緒に食べて。竜星は寝た。

「すっげー！ゲームじゃ全然勝てなかったヤルキモノに楽勝で勝てた。これがこいつらの力。よくやったよ二匹共。」

タツベイ達は褒められて嬉しいのか尻尾を振ってた。

「よしそれじゃあそろそろ出発しよう。なんとか野宿できる場所を日が暮れる前に見つけなくちゃ。」

そういつて竜星達は再びあるきだした。少し歩くと野生のムツクルやコリンク、等々に襲われて、イーブイ達はもちろん竜星も疲れていった。そして日が暮れてきた時やっとな野宿出来そうな場所を見つけた。

「やつと着いた。近くにはオボンの実とかモモンの実とかがいっぱいあるからここに決定だ！」

「さてと早速木の実を採ってきますか。」

そういつと竜星は大量の木の実を採ってきた。それから二匹と一緒に食べて。竜星は寝た。

## 第二話旅の始まり（後書き）

最後まで読んでいただきありがとうございます。感想お待ちしております。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9462g/>

---

ポケットモンスター アルタイル

2010年10月8日15時12分発行